



12月号 令和6年12月12日発行

四中だより

朝霞市立朝霞第四中学校
埼玉県朝霞市栄町 5-1-60
TEL(048)466-4711
Fax(048)467-4744

目指す学校像

生き生きと学び、夢と希望を胸に、感動を実感できる学校

おた さだはる

感情や経験を共有すること ～AIと人間～ 校長 太田 禎治

今月の学校朝会のあいさつで、スマートフォン登載のAI（人工知能）にわずか4つのキーワードを入力して、作成させたものを紹介しました。キーワードは「中学校・校長・12月・あいさつ」。初めて使ってみたのですが、本当にびっくり。あっという間に何種類ものあいさつ文書を作成してくれました。さらに、よりよい文書にするためのアドバイスまで。

すでに学校でもAI搭載の学習ドリルを活用するなど、これから先、私たちの身の回りでどんどんAIが活用されていくでしょうし、この流れは止まることはないと思います。

私たちの身近に、人間よりも状況によっては優れた知能をもった人間型ロボット（ヒューマノイド）があらわれる日もさほど遠くないと思います。

さて、では、われわれ人間が人間型ロボットとは決定的に違う点はどこでしょう？

いろいろあるでしょうが、イメージしてください。（以下はあくまでも私が考えたこと。）

- ① 痛い思いをする。 ※ロボットはあくまでも機械ですから痛いわけがありません。
- ② 涙が流れるほど悲しい思いやうれしい思いをする。 ※涙は自然とあふれ出るものです。
- ③ 汗をかき、疲れ果てるほど何かに打ち込む。 ※汗をかく対象は人それぞれです。
- ④ 挑戦して失敗する。 ※いわゆる「やらかした」「やっちゃった」なども含まれます。
- ⑤ 疲れる・体が衰える。 ※自然の摂理ですから仕方ありません。新しいAIが出たとしてもそれは、前のAIが衰えたわけではありません。

ここにあげたのはまさに「人間らしい」いや「人間くさい」部分かもしれません。

そして、最大の違いは、人間はこれらの経験を仲間と共有できる、理解しあえる点。

どんなにすぐれた人間型ロボットが寄り添ってくれても、感情（＝心）に関わることは、経験に基づいた人間には勝てないのではないかと思います。このことは、決してAIを否定しているわけではありません。それぞれの得意なことをしっかりと考えていくことが大切だと思うのです。

学校では先月下旬から、1年生は保護者の方を中心に職業に関することを、2年生は本校卒業生から高校生活に関することを、3年生はJICA（国際協力機構）で活躍された方から世界との関わりに関することを、それぞれ伺う機会がありました。多くの職業に就いたり、たくさんの高校に通ったり、世界各地に出向くなど、直接体験はできなくても、人生の先輩たちの生きた経験を聞いたことは、同じことをAIが教えてくれることよりはるかに身近に感じられ、身についたのではないかと思います。先輩たちから聞いて得た知識や技能を、これからの学校生活や進路選択の際に有効に使って欲しいと思います。（なお、この文書の作成にAIの力は借りておりません。）